

たゆみなく・すこやかに・たくましく



学校だより 12月号



青森県立黒石養護学校 令和7年12月19日発行 教頭 本田 知也

安心できる学校とは

突然ですが、質問です。

「何回紙を折ると、その厚さが月に到達すると思いますか？」

紙の厚さは約0.1ミリです。1回折ると厚さは2倍になり、約0.2ミリ。もう1回折るとさらに2倍になり、約0.4ミリになります。まだ1ミリにも達していません。10回折ると厚さは約10cm、20回折ると約100m。もちろん、どんどん折り続けることは物理的に不可能ですが、計算上では、いつか紙の厚さが月まで届きます。地球と月の距離は約38万kmです。さて、みなさん、何回折れば月に到達すると思いますか？

正解は……43回です。

月まで約38万kmもあるのに、わずか43回で到達すると思うと驚きませんか？これは比較的有名な話なので、ご存じの方もいるかもしれませんが、指数関数を直感的に理解するための例えとしてよく使われます。

この数字が示すのは、わずかな厚みでも積み重ねることで、驚くほど大きな力になるということ。学校生活に置き換えて考えると、日々の積み重ねは小さな変化を生み、成長へとつながり、時には想像を超える結果をもたらすこともあるのではないのでしょうか。

さて、保護者のみなさんにとって、本校はどのような場所でしょうか。子どもたちが成長する場として、学校にはどのような役割があるのでしょうか。

4月に新年度が始まり、約9カ月が経ちました。子どもたちは、日々の教育活動の中で、挨拶や着替え、トイレ、食事などの日常生活動作、自立活動を中心とした課題の克服、各教科等の学習に取り組んできました。こうした日々の活動を大切にしながら、運動会や特別支援学校スポーツ大会、ワークフェア、黒養祭、校外学習など、多くの行事にも挑戦してきました。そこには、わくわくする体験や新しい発見など、たくさんの学びがありました。また、本番に向けてプレッシャーがかかる中で練習を重ねた経験、緊張感のある中で迎えた本番の経験、行事が立て込む中でも投げ出さずに取り組んだ経験などは、子どもたちにとって大きな財産になったと思います。

子どもたちは、日々の積み重ねによって、少しずつできることが増えてきます。仲間や先生方の言葉掛けをきっかけに、チャレンジしようとする気持ちが芽生えることもあります。そこには、ちょっとした我慢や勇気、努力も必要ですし、土台には「安心」が欠かせないのではないのでしょうか。子どもたちが学校で安心できるもの、人、場所、活動をたくさん見つけ、増やすことで、不安な気持ちを和らげ、一人一人のもっている力や良さを最大限に発揮できると思います。そのような環境を作り、支援していくことが学校の役割だと思っています。

まもなく2025年が終わります。冬休み中、ご家庭でも今年の出来事を振り返ってみてはいかがでしょうか。

来年の干支は丙午（ひのえうま）、つまり午（うま）です。十二支でいうと「午」、十干では「丙」にあたります。ちなみに、午年は12年ごとに巡ってきますが、「丙午」は60年に一度の組み合わせだそうです。来年はどんな年になるか楽しみです。